



自強不息 質実剛健 文武両道

URL : <https://www.koyo-h.wakayama-c.ed.jp/index.html>

税に関する高校生の作文 九内 遙音 (2B) さんが県知事賞を受賞

昭和37年から国税庁が行っている「税に関する高校生の作文」において、本年度、2年B組の九内 遙音さんが県知事賞を受賞し、12月13日に本校校長室において賞状が授与されました。生徒の皆さんに「税」について改めて考えるきっかけにしてもらえればと思い、九内さんの受賞作文を紹介したいと思います。



「税について」 向陽高等学校 2年B組 九内 遙音

平成三十一年、日本の消費税が10パーセントから11パーセントに引き上げられました。生活へのインパクトが大きい消費税が上がるとどうしてもマイナスな印象が先走るかもしれません。しかし実はそんなネガティブなことではないかと私は思っています。ではなぜ、世間では悪い面の方がより目立つのでしょうか。

私は今年の春、高校編入とともに日本に引っ越すまでずっとドイツに住んでいました。日本とドイツの様々な違いに戸惑ったのですが、税金もそのうちの一つです。例えば、一番身近に感じられる消費税の話をすれば、私は幼い頃「日本の百円ショップというものは嘘じゃないか」と思っていました。税抜き価格で百円でも、結局支払うのは百十円です。ドイツでは基本的にこのようなお店の商品が税抜き価格で表記されることがないのでそのように思ったのですが、そもそも消費税率はドイツの方が日本より高く十九パーセント、さらに平均所得税率も日本よりドイツの方が高いそうです。それだとい見ドイツの方がお金の負担がとても大きく感じられますが、食料などの生活に欠かせないものには軽減税率制度が導入されています。実際日本のスーパーに行くと食料の値段がドイツよりかなり高く、驚きました。そして、いわゆる高福祉国家であることでドイツには手厚い社会保障制度があります。例えば、私たち学生に関して言えば、大学を卒業するまで学費は無料です。その他にも高速道路の利用が無料だったり、税金の恩恵を受けられていると感じられました。

そしてそれを特に感じたのは、新型コロナウイルス感染拡大の時です。例えば、日本で連日報道された飲食店の危機的状況、ドイツでは飲食店に例年の八割の収入が保障され即座に支給されたので、さほど問題にはなりません。つまり税金のおかげで収入に困る人が出るのを抑えられたということです。このように、税率が高いことは必ずしも悪いとは言えないはずなのです。日本は消費税が低くても大学に行くのにはかなりお金がかかったり、結局様々な事柄にかなりお金がかかります。なのに高い税率に悪い印象が多いのは、矛盾しているように見えますが、まさにこれが原因だと私は考えます。つまり税金がどこで使われているかははっきり見えづらいのです。これで消費税が上がるとただ負担が大きくなると感じられ、税金の利点がありません。今後、日本で消費税率が上げることにも、支払う税金に見合った社会保障や福祉サービスが受けられている、と国民に感じてもらうには、税金が何に使われているのか明確にすることが大事なのではないでしょうか。

令和5年度「税に関する高校生の作文」本校受賞者

和歌山県知事賞 九内 遙音 「税について」

和歌山税務署長賞 溝浦 世結良 「理想の社会」

和歌山納税協会长賞 前川 璃空 「地球を守る税」

和歌山市租税教育推進協議会长賞 藤原 蓮 「消費税は何のため？」

令和5年度和歌山県高等学校生徒科学研究発表会

～きのくに探究フェスティバル2023～

12月12日(火)に和歌山ビッグホールにおいて、本校と海南、日高、田辺、粉河、伊都中央、近畿大学附属和歌山高校の生徒、約500人が参加して行われ、日頃の授業やクラブ活動での研究の成果を発表しました。参加生徒の投票により、下記の研究が生徒投票賞を受賞しました。



【生徒投票賞受賞】

「紀ノ川下流部止水域における生態系研究」(理学部：脇本総志, 山木大馳, 楠本廉, 伊藤侑誠, 木村俊介, 井口颯来)

「席によって当たる傾向が変わるのか??」(普通科2年生：児玉大樹, 井上承音, 妹背晴斗, 加山ジロー, 岡田恭典)

「発泡スチロールから消しゴムを作ろう」(環境科学科2年生：上野有彩, 林亜依, 岡田紗和, 高木日夏里)

「ザリガニから生分解性プラスチックを作る」(環境科学科2年生：山木大馳, 落合優介, 中谷廉, 花谷賢志)